

經濟要錄

和書農務省
圖書
第九冊
第八號

大正政官文庫
和書
一〇九三八
七冊
函架

482
內閣文庫
和
一〇九三
一八二函
一四架

| | |
|------|---------|
| 內閣文庫 | |
| 番號 | 和 10938 |
| 冊數 | 7 (1) |
| 函號 | 182 482 |



高政官
内庫

經濟安録序

明治十二年購求

我力家ハ世々出羽ノ國雄勝郡ニ住テ米地アリシ者

ナリ慶長五年ヲ以テ領地ヲ失ヒ乃テ醫ヲ以テ業ト

セリ其後予カ祖父不昧軒翁ニ至リ饑饉屢行ク

萬民流散シ餓殍スル者甚ク多キヲ觀テ心稿ニ歎

息シテ謂ク醫ノ業ニ事小ク廣ク衆ヲ救フニ足ラズ

願ハ國家困窮萬民飢寒ニ迫ル大患ヲ濟フベキ道ア

ラント於是乎始リ經濟學ニ志シ先ツ農政ヲ精クシ

物産ヲ開キ百工ヲ興シ製造ヲ巧ニスルノ諸法ヲ

高政官
内庫
印

高政官
内庫
印

明ニセンコトヲ欲シ遍コト列國ノ游歴シテ高名大家ノ
門ヲ訪ヒ其他老農老圃ヲ始メ石工イシキリ狂師キヤウシ坑戸イナリ礦夫クワンブ
窯セトモノ匠シ瓦匠カワラシ仙人ツマ漢父レウシ器師アミヒキ措戸カシク織匠オリシ漆家シ鑪カチ匠ワキ
鍛冶カシヤ銅匠ドウシヤ鋸匠コヒキ鑿工ヒキモノシ漆匠ヌシヤ捲胎匠キマシ茶士チヤシ釀酒家ツクリサカヤ
菓匠クワシヤ滷丁シホヤキ等追トシガ約謀カヲ各其業ノ教理ヲ講究ス
且又深山幽谷ノ潜行ヒ江湖河海ヲ跋渉シ金
穴ヲ探リ玉丹入ル苦刻研宥スルコト四十餘年足迹
殆ト天下ニ遍シ享保十八年出羽國秋田郡阿仁ノ銅山ニ
卒ラ曾テ所著ノ開國新書十二卷山銅秘録ニ卷

アリ所謂ル開國新書即テ經濟ノ要旨開物ノ蘊
奥ヲ説タル者ニシテ家字ノ基根ナリ而其大趣意ヲ
約言トキハ荒曠タル國土ノ新ニ開発シテ物産ヲ採
出シ境地ヲ富實スルノ論ニシテ蝦夷國ヲ開拓スルノ
策ニ似タリ山海ノ經緯シ度数ヲ測量シテ經界ヲ
分明ニスヘキノ術ヲ説ク甚精詳ナリ又山相秘録ハ
金録銀銅鉄錫鉛朱砂水銀及ヒ美ノ玉寶石扁青
綠青硫黃明礬等ノ出ル山ノ相法ヲ説キ金山銀山ヲ
始トシテ種々貨物ノ金藏スル山ノ形容ヨリス上古ノ色

相ト性質トヲ觀テ即テ何物ヲ會有スルヲ知リ出
其諸金ノ苗^{ツル}ヲ索^{クツ}ルノ法ヨリ^{カ子スシ}鑛脉ノ連續スル條理ヲ探
ルノ諸法ヲ講シ諸種合藏ノ多少ト其所ノ在高
下淺深トヲ緊定シ此ヲ穿採ノ難易ノ前知ノ
スルノ秘訣ノ辨シタルヲ以テ其山ヲ開發セサル以前ニ
吉山損益皆前算スヘシ且又山中山上自然ノ形勢ニ
因テ水脉ノ通利スル經絡アルヲヲ審ニシ大切ヲ
開テ諸坑ヲ乾燥スルノ秘密ヲシメス故ニ坑^ク鑛家^カ
於テ無上ノ珍寶ニシテ甚タ深秘スル所ナリ抑モ

此山相學ト云フモノハ古來唯其名ノミ有テ實微
無カリシカ故ニ坑夫等種々謊言ヲ吐テ人ヲ^{狂惑シ}
家産ヲ破ラシメクルヲ^懣テ多シ予カ祖父公羽此ヲ憤リ
^精精究セラレシテ四十餘年遂ニ此書ヲ著述シ
テ以テ門弟子ニ授ケ此ヨリシテ彼山相ノ法始正
經有テ微スベキノ學ト為セリ今出羽眞劍伊豫
但馬石見等ハ山相學テ唱ル者アルハ太抵予カ祖父ノ
未泯ナリ始テ不昧軒翁在世ノトキヨリ先考玄明高
翁ニ命シ經濟開物ノ學ヲ煅煉シ益其道ヲ精究

セシム祖父翁波セルトニ及テ先考モマタ四方ヲ游
歴シ此學ヲ講究スル丁四十餘年閑物究理經濟
講義等隨筆十三卷山相祕録圖解一卷其他抗
場ニテ人夫ヲ扱テ法ヲ筆記シメルモノ三卷ヲ著ハセ
リ天明元年春先考松前ノ行アク予ニ隨テ蝦夷
地ニ赴キ風土ヲ巡覽シ氣候ヲ考ヘ諸產物ヲ墾ニ
此年松前ニテ越年ス同二年春松前ヨリ津輕ニ渡リ
南部仙臺相馬等諸地ヲ巡覽シ遍ク奥列ノ海濱
ヲ廻リ其秋白河ヨリ二本松福島ヲ經テ又仙臺領ニ

入り小安越ノ間道ヲ涉リ歲暮ニ秋田ニ返リ越年
ス同三年秋田ノ故宅ヨリ新庄ヲ銀山ニ至リ其隻
出羽ノ國諸地ヲ巡廻シ鳥海山月山羽黒山羽山等
ニ上リ庄内領最上領山形神山米澤領等ノ風土
諸產物ヲ觀ル其秋會津ニ入り飯豊盤基等ノ
諸山ニ上リ猪苗代ノ湖水ヲ廻リ遍ク會津ノ諸地
ヲ巡覽シ彼ノ士ノ所產ヲ熟視セリ其年十月火玉峠
ヲ踰テ下野國那須郡ニ出テ高原山ヲ越ヘ其麓ノ
金山數日滯留シ土人ニ推草ヲ作ル法ヲ傳フ暮年ニ日

光ニ至^リ久治^郎村越年ス此ハ此ノ村ノ住人猿橋
甲斐守ハ予カ父翁ノ門人ナリ故ナリ同四年春ノ
始ヨリ黒髮山ヲ始メ日光諸地ノ山谷ヲ跋渉シ種々
産物ヲ斂^ル遂ニ猿橋氏ヲ辭シ去テ足尾ノ銅山ニ
至ル此銅山ハ予カ祖父及ヒ父翁ノ門人有テ今度此
ニ來リシモ銅ヨリ銀ヲ採^リ採ノ法ヲ講スルト同所^仁
田木村ノ錫山ヲ開^カン^コヲ欲スル者アリテ予カ父ヲ招^メ
待^セシヲ以テナリ然レ^モ近來足尾山銅ノ出ル^ト採^テ少
カシテ土地ノ衰微スル^ト甚シ父翁此如ニ逗留スル^ト

百餘日残暑ノ毒ニ惑シ^テ痢ヲ患^ラテ^テ草^ニアリ醫藥効ナク
八月三日終ニ足尾旅亭ニ卒ス其没スルニ臨テ遺言シ
給ク我カ死スルノ後汝シモ^シ徒^シク故郷ニ皈^ラハ草木ト
同ク^ク櫟^ト果^トテ父祖ニ世勤學刻苦ノ學業空^シク塵城
スルニ至^ラン^ト必セリ熟^ラ汝カ為^レ人ヲ視ルニ幼^クナレ^モ
事敏ヒ希^クハ此ヨリ江戸ニ出テ博學多^ク能^クノ師ニ從
ヒ勉^テ經濟閑物ノ學ヲ講シ明シ父祖宿志ヲ繼^リ先
人ノ事業ヲ述^ヘ以テ家學ヲ成熟セ^ヨト時ニ予十六歳
童子何ヲカ知^ラン唯其遺命ヲ奉^リ江戸ニ出テ槐園^字

田川玄隨先生ニ從ヒ粗鳥歎草木ノ形状ト主鉄トヲ
開キ且世ノ和蘭諸藉ノ譯説ト講義トヲ受ク又燕ノ
蕪苑并上仲先生ト友人木村茶藏子ヲリ天^文欠地理曆等ノ
側量等ノ諸術ヲ傳ヒ得タリ此ヨリシテ笈ヲ負テ四海
ヲ遊歴シ諸國ノ通邑大都ハ論ラシ深山幽谷等ヲ潜行
シテ諸種物産ヲ探索シ足迹ノ所及凡一六十餘國
周爰咨詢レリ是ヲ以テ予カ經濟開物ノ學業外
ニ甲冑ヲ製シ弓矢ヲ作り大銃ヲ放テ火術ヲ行フ等ノ
武事迄ニ通達スルヲ得タリ文化三年予江戸ニ皈リ京

橋柳街ニ居住ス同四年魯^ロ亞^ア人蝦夷ノ北邊ヲ乱妨
ス此ニ因テ都下ニモ種々風評アリテ世止スコケル^{ケル}物騷シ
此ノ年ノ冬阿藩ノ老臣集堂勇丸工門ト云リ人ニ
厚禮以テ^聘子^ノ招セラレ乃テ集堂氏ノ幕僚ト
爲レリ同五年集堂翁ニ從ヒテ阿州ニ赴ク
徳島府ニ滞留ス所謂ル集堂翁ハ阿藩少老
ニテ家老ニ非スト雖トモ英物ニシテ切勞極テ多ク
以テ阿候ノ禮過最寮ク阿波淡路ニ別ヲ政事悉ク
此翁一人ノ意ニ決断シ彼ノ固老タル稲田加島等ハ唯ク

其上席ニ坐スルノミ初メ明和六己丑ノ年ニ魯西亜國
ノ船阿列海部ノ港ニ漂着シテ数日滞留セシトアリシヲ
以テ今度蝦夷ニ外寇アリシヨリ此所ニモ賊船ノ来ル
トアラントテ士人頗ル此ヲ畏ル集堂翁予ニ問テ曰
吾子ハ地理学ヲ修メ海外萬國ノコト実ニ精シ必ス
西洋諸蛮ノ動靜ヲ知シ且軍旅ノ学ニモ長セリ防海
ノ策如何シテ可ナラン予答テ曰阿波土佐紀伊ノ三州ハ
實ニ國家ノ南屏ナリ不虞ノ防禦固ヨリ密ナラスニハアルベ
カラス豈翅ニ彼魯西亜ニ備ウベキノミナラン哉凡ノ防海ノ

武器ハ大砲ヨリ利害ナルハ無シ数タノ大銃ヲ備ヒ
ノ
黠敵ノ術ノ水戰ノ法トテ鍛練シ軍令ヲ嚴明シテ海
上ヲ警ノ守スルノ外ニ僕其他業ヲ知ラス公羽此ヲ然リトシ
乃テ君候ニ奏シ於レ是阿淡西州ノ鉄炮ヲ檢セシニ
三分彈以下ノ小銃ハ極テ多ケレトモ拾分^{シヨ}彈以上ノ中筒^{エン}
ハ其カス甚タ少ク百分以上ノ大筒至テハ雪際^{シヨ}重炮ノ用ニ
勝タル者ハ僅三四坐ニ過ス其他ハ所謂ル子母炮^{ハラ}一名掃
郎機ト称スル炮十餘坐アル凡^カ実珠モトキ疎畧ノ製
ニテ烟氣ノ漏ル^ト甚シク实用ニ堪ス於是乎徳島

府ノ南郊富田ノ二軒屋町ト云フ処ニ鑄造方館署ヲ
立テ築田秀太郎ヲ奉行トシ炮術士坂本正平ヲ監官
トシ予モ人日々此ニ會シ大小二百餘坐ノ鉄炮ヲ鑄
造セリ其種々製法トノ事ハ南游記事ニ詳ナリ且
又公羽ノ諸事ヲ詰ヒ問フノ懇切ナルニ因テ西洋列國史
畧五卷武備一家言五卷ヲ著シ且ツ火藥ノ彈丸ヲ
飛走セシムルトノ数理ヲ推シテ鉄炮完理ノ説三卷三銳
用法論三卷ヲ作ル人日夜武事ヲ講シ明シ火攻ノ利
害ヲ精究シテ自走大船及ヒ再ヒ震雷ト紫金鈴ノ

秘彈等 製作シ以海國防禦ノ籌策ヲ盡シ曰ク六
年阿列ヲ辞シ去テ江戸ニ皈シ予カ阿列ニアリシトキニ
大燒ヲ放テ火球ヲ走ラシメ種々防海ノ便要ナルヲ
工夫セシ中ニ自走火船ハ蜜船ヲ燒打スルニハ要用物
アラスト云フベカラス此火船ハ火藥ヲ以テ船ヲ走ラシム
ルヲ以風波ノ逆順ニ拘ラス自ヲ走ルコト矢ノ如シテ須
臾ニ五十町ノ外ニ至ル其機ヲ察スルニ及テハ炎縮
天ヲ焦シ海水沸騰ス且三船一連七船一連等
ノ法ヲ施ストキハ衆火船自ラ鉄ク賊船ヲ巻圍繞

シテ燒打シ人カラ勞セス大功ヲ爲ス實ニ一畝ト称ス
ベシ此ノ火船ノコトヲ堀田根津寺正敦君御聞及ヒナサ
レ御尋アリシニ因テ因ト説ヲ認テ奉リシニ御列席ノ御
評議有テ植村駿河守家長君ノ御裁リニテ御鉄
炮頭井上左太夫ニ右火船製法傳授スベキノ御内意
アツテ因テ井上君ニ傳授セリ此ノ大船ノコトハ予カニ
銃用法論ニ詳ナリ同七年江戸ヲ去テ上總国山
邊火豆谷ニ退去ス此ノ火船法傳授ノ後予カ虚各
甚メ高クナリテ諸家ノ士太夫及ヒ好事ノ輩日ニ我カ

家ニ輻湊シテ門前車馬群ヲ為ス予カ妻浪人ニ
シテ虚譽ノ高キヲ以テ不測ノ災難アラシコトヲ畏レ
頻ニ隱遁ヲ勸シカ故ナリ予既ニ隱者トナルノ後
郷人平田篤胤等カ所唱ノ皇国古道ノ学ニ從事シ
深ク天神地祇ノ遺説ノ研ノ究スルニ本正ヲ未ヘ明カニシ
テ天地萬物ヲ化育スルノ理皆渙然ト自ラ解釋スル
コトヲ得タリ以家学ヲ成就スルニ至レリ於レ是乎祖父
開国新書及ヒ先考ノ開物要録ヲ基礎ト爲シ増
輯スルニ予カ年来推究陶煉シテ新ニ得タル所ヲ以

テレ日夜唯家学ノ窮理諸説ヲ校合シテ鎔造
化音論三卷天柱記三卷經濟總録六十卷ヲ作
草稿既ニ成レリ茲ニ隣村ノ土民ニ橋本治右衛門
脊アリ予ニ從テ經濟開物学ノ講義ヲ開クコトニ三
月乃テ江戸ニ出テ國家經学ヲ唱テアタノ諸候
ヲ日ビ士大夫ニ尊敬セラレ或ハ國事ノ會義等ニモ
參スルコト有ト云一治右衛門予カ經濟總録ステニ成
レルヲ知リテ傳授ヲウケンコトヲ欲シアマタ使ヲ来リ
シテ此ヲ請促ス予熟シ按スルニ武藝火術等ノ

演義カ兵学戦法等ノ講談ニハ或ハ一時ニ人ヲ
聳^{コト}動^カシノ門前市ヲ爲ス許^{ホト}ニ群集スルコトモ
有ベケレトモ國家ヲ經濟スルノ大道ニ至テハ誰
人モ皆聞クコトヲ耳ニセサル所ナリ我家祖父翁
ハ此ノ学ヲ唱ヘハシメシヨリ此道ヲ精究スルコト
三世既ニ百二十餘年ニ及以然レトモ朱タカワテ
此学ノコト由テ諸候及ヒ郷^カ太^ウ夫一人モ訪來
ルコト有ルヲ聞ス彼ノ治右衛門予カ講談ヲ聞
クコトワツカ兩三月ニシテ數多ノ國君ニ聘一招セ

ラレ国事ノ會議ニマテ參スルニ至ルトハ亦何ン
等ノ珍事ヲヤ或ハ天狗老狸等ノ依託スル者予
予此事ヲ聞テ竦然トシテ骨驚ト有リ且其所
可慮者ハ彼カ油菴利ロヲ以テ或ハ邦家ヲ欺キ
我カ家学ヲ汚穢スルヲ有ラントヲ且ツ夫レ世界ヲ
經緯シテ蒼ノ生ヲ濟シ救ヘキノ大道ヲ右様ノ輩
ニ附属スベケンヤ是以テ彼ニ傳フルヲ許サス然ルニ
橋本我カ家ノ学ヲ傳ヒ得タルヲ唱ルカ爲ニ茲ニ具
然ナルノ辨スルノニ又門人加藤久太郎佐藤新三郎

齋藤正助根岸新兵衛等トモニ老實ニシテ經緯ノ学
ヲ修サメ或ハ游歴シテ遍ク人ニ土地ヲ經營スル業ヲ
ツトメガルヘカラサルノ理ヲ喻シ或ハ諸侯郷太夫ニ説
テ農政ヲ勉強セシムルヲ以テ彼等モ亦皆經濟
總録ヲ得シト欲ルヲ久シ然レモ總録ノ浩翰
ニシテ游歴ノ環濟ニ不使ナルヲ以テ板粹シテ凡
作有ラシヲ請フ予亦彼ニ等ニ家学條理ヲ熟
知セシメンヲ欲シ乃テ其請ニ從ヒ總録中當今
一時務ニ切ナルモノ数件及ヒ国土ヲ經營シ物産ヲ

開発シテ土地ヲシテ遺利ヲカラシムヘキノ大意トノ因
家ヲシテ永ク全盛ナラシメテ衰徴スルコナク境内長ヘ
ニ富饒ニシテ含靈ノ大ニ蕃息スベキノ奥旨トヲ摘
採テ十卷ノ書トナル其名ヲ經濟要録ト題シ且又
家学ノ由来ヲ序シテ此ヲ其旨ニ冠シメ以テ彼ノ
四人ニ贈ル且ツ此ヲ警テ曰ク此書節畧ナリト雖モ
家学ノ規則經濟ノ要旨大概此ニ備ル卿等モシ
此書ヲ以テ綱ト爲シ曾テ紀聞セシ所ノ開物諸説
ヲ目トナシ綱目相発シ此彼投合シ此ヲ混和シテ

用ルトキハ国家ヲ經緯シ人民ヲ安集ルノ業ニ於テ
餘裕アラシ者ナリ且ツ夫レ卿等精究講明ノ謀ヲ累
ル際ニ人君及ヒ卿太夫中ニ一モ此書ヲ超意心願ト徹
透シ頼ノ以テ事天ノ政ヲ行ノニ至リ一境ノ人民慈澤
潤_レテ得ハ實ニ是天地覆載ノ洪恩シ答ヒ不昧_レ轉
玄明_ニ高_ニ公羽ノ神靈ヲ慰スルノ最モ大ナル者ナリ勉哉

文政十歲三月既望南總隱士佐藤信淵元海甫書

于大豆谷之融齋

經濟要錄目次

卷之一

總論 三章

創業篇 三章

附諸國風說記 九章

卷之二

開物上篇 六章

美玉 第一 寶石 第二 美石 第三 丹青 第八 第四

擬玉 第五 七 金 第六

卷之三

開物上篇 十一章

金胎 第七 金器 第八 藥石 第九 雜石 第十

甕器 第十一 造石 第十二 醕鹽 第十三 鹵石 第十四

硫礬 第十五 土器 第十六 土砂 第十七

卷之四

開物中篇 七章

百穀 第一 諸菜 第二 百菓 第三 造釀 第四

諸糕 第五 諸絲 第六 衣服 第七

卷之五

開物中篇 十三章

染料 第八 藥物 第九 諸油 第十 暗膏 第十一

諸紙 第十二 茶香 第十三 找木 第十四 雜盞 第十五

漆盞 第十六 筵席 第十七 雜產 第十八 薪炭 第十九

名花 第二十

卷之六

開物下篇 十五章

漁撈 第一 畜魚 第二 象禽 第三 野禽 第四

家獸 第五 野獸 第六 水獸 第七 割調 第八

暗膏 第九 皮革 第十 羽毛 第十一 骨角 第十二

藥物 第十三 玩物 第十四 雜產 第十五

卷之七

富國篇 九章

目次畢

經濟要録卷

總論

經濟トハ國土ヲ經緯シ蒼生ヲ濟救スルノ謂ナリ所謂ル
 國土經緯スルトハ先其國ノ國郡ヨリ東西ノ領ト分
 界ニ至ル迄ノ度数ヲ測量スルヲ經ト云ニ其國ノ南
 界ヨリ北界ニ至ルマテノ度数ヲ測量スルヲ緯ト云フ凡レ此
 經緯ヲ審ニシ氣候ヲ察シ土性ヲ辨シ地カラ盡スハ食
 物衣類ノ大本ナリ又蒼ノ上濟ノ救スルトハ先境内ノ
 百姓ヲヒテ水ノ旱ノ患ナク居處ノ安寧ナルヲ樂シム

ルヲ濟ト云ヒ洛伯ニ産業ヲ勉備セシメテ食物衣類ノ
餘裕アラシムルヲ救ト云フ缺境内ノ平原曠野山谷河
海池澤林藪ヲ經緯シテ氣候ノ寒煖ヲ審ニシ
土性ノ剛柔ヲ察シ氣候ノ適^カヒ土性ニ宜キ所ノ諸品
ヲ作り天地化育ノ勢ノカヲ盡シテ土地ニ遺利ナカシメ
士農工商トモニ其職ヲ勤テ懈怠スルヲ無ク奢移スル
コト無シハ賊用流徒テ國家富盛スルヲ必セリ即テ
是ニ經濟ノ要旨ニシテ國家ニ至タル者ノ一日モ怠タル
ヘカラザル急務ナリ若夫此道ヲ忽ニスル片ハ其國必ス

空虚ニナリテ食物衣類ノ定ラサルニ至ル國內既ニ空
虚ニシテ食物衣類ノ定ラザルニ及テヒ百姓人輪ノ五
常ヲ守ルヲ缺ハスシテ或ハ刑罰ヲモ^畏スシテ惡事ノ
爲シ或ハ老弱ハ飢寒ニ斃シ壯者ハ悉ク離散シテ田
畠ハ荒廢ニ郷里人ノ無キニ至ル可不畏哉故ニ國君
ノ要務ハ經濟道ヲ脩シテ境内ヲ富豊ニスルヨリ要ナルハ
無ク小民ノ要務ハ其家ノ業ヲ勵シテ衣食ヲ充テ足
ラス要ナルハナシ小民孝子アリト雖トモ衣食ノ足ラサルニ
及テハ其父母ノ飢寒ニセシメサルヲ缺ム國君仁心アリ

ト雖モ賊用給ラサルニ至リテハ其百姓ヲ剥奪セサルヲ
得ス經濟ノ一日モ怠ルベカラサルヲ以テ察スヘキナリ然而
シテ我カ家ノ經濟學ハ天地ノ神意ヲ奉行シテ世界
ノ蒼生ヲ濟救スベキノ大道ナルヲ以テ上天ノ明威ヲ
畏レテ恭儉ノ二徳ヲ脩レテ奢侈放蕩ヲ行フ嚴ッ警
ムルヲナルカ故ニ從來淫華洒落ヲ好ミ驕傲ニ慣レ習ル人
ハ皆其説ヲ聞ノコトヲ嫉ミ是レ百二十餘年ヲ經ルニ雖
モ絶テ我カ家ノ學ヲ信用スル者無キ所以テナリ然ルニ
橋本カ如キ些ク予カ學海ヲ管窺セシノミニテ諸侯

及ヒ士大夫ニ尊信セラル、予甚ク心テ安シセサル所ナリ
且夫レ今テ時ノ如ク太平二百餘年四海ノ波濤ノ難ナク
萬國テ戈ノ患ナキハ古今珍シキヲ以テ領讚ユベキ最
上ノ御代ナレトモ然レモ亦上古聖人ノ明戒ノ如ク治
世ニモ亂ヲ忘レスシテ食ノ足ニ兵ヲ足シ信義ヲ尚フ
ハ善政ノ最モ善ナク者ナリ殊更太平ノ永ク繼クトキハ人
皆安樂ニ耽ルカ故モ亦竊ニ畏ルベキノ一事有り其一
事ハ如何ナルコトブト云ソニ人々至治ノ慈ノ澤ニ潤シ其身
ノ安佚アルヨリ種々巧ナル思慮ヲ生ル居處飲食衣類

玩弄ノ物ヲ好トシテ萬端皆華羨精好ニ爲リテ識^シテ
ス^モ覓^テユス自然ニ奢侈驕慢ニ赴クモノナリ太平ノ事躰ノ
漸々ニ繁華驕奢ニ進行スル勢ト云フモノハ譬ハ火ノ益
熾水ノ益溢ト同ク奈何ントモ爲レ難クシテ容易ニ^{ヒキ}境
回スル^{モト}ノ能ハサルモノナリ故ニ賊用ノ費ル^トハ年々倍加
シテ上下共ニ世ヲ渡ルコト難渋ニ及フハ世界一統ノ運歩^{ハコ}ヲ
ル者ナリ夫レ賊用ノ費ル^ト年々弥益ニ增長スル^トハ国内
ヨリ出ル物産モ亦歳々ニ弥益ニ倍シ加ルニ非ハ其国用ヲ辨ス
ルニ足ラス然ルニ賊用ノ費ルコトノニ増救シテ物産ノ生ス

ルコト倍加ル^ト無キニ至テハ国内次第ニ空虚ニ爲テ後ニハ
賊用ニ予^{ツモ}窘^{ヘキ}ハ論ヲ得スシテ知レタコトナリ既ニ賊用
ノ給^{タラ}サルニ臨テ恐シテ早ク經濟ノ道ヲ脩シテ嚴シク制
度ヲ改正スルトキハ挽回スルニモ難カラサルモノ者ナレバ此
レモ又明君カ賢太夫ノ忠父ニ應シ時務ヲ知ル者ニ非レハ
及^ラテ^テ能^ハサル所ニシテ太抵ハ花利ノ金^{クツキ}ヲ假貸^{カケ}テ先ツ
眼前ノ穩便ヲ計ラクタカハ改革スベキノ機會ヲ失フ者
ナル夫レ賊用ノ既ニ屈スルニ及ヒテモ郷太夫其君ニ
節儉ヲ勸メ制度ヲ改ル^トヲ務スシテ唯其眼前ノ穩

カナルヲ務トスルハ其君ニ不自由ナセルヲ憚リテ一時
ノ忠ナルト似タルトモ己カ君ノ国家ヲ陸落シ萬民ヲ飢
寒ニ迫ラシムルノ基、原ニシテ其実ハ毒ハ一國ニ流スナリ
必ス上天ノ冥罰ヲ免レス且ツ天レ花利ノ金ヲ貸リナル以前スラ
既ニ賊用ノ給サルニ困ム然ルニ利倍ノ金ヲ借り入レテ先ツ
眼前ノ穩カナルヲ計リ尚其奢侈ヲモ警メス制度ヲモ改
スシテ約訛ノ如クニ利足ヲ加ヘ其金ヲ返ス者ナラハ其
後ノ貧窮ハ益ク甚シカルベキモ亦論スルニ及ハス是以
テ借債ハ年々ニ増積テテ虚談ハ月々ニ上達ス於

是乎債主モ膽ヲ消シ以後借者ノ絶テ無キニ至ル故ニ
貧困ニテ家ヲ舉用ノ法ヲ聞ニ文武ノ備不備ノ論セ
ス徳操ノ有ノ不有ニ拘スラス唯カ歛ノ金ヲ借出ス者貴
官ヲ授ルト云フ然レモ尚亦融通ノ難渋ナルニ及テハ終ニ
領内ノ百姓ヲ剥奪ニ至ル於是乎境内ノ百姓皆其侵
漁ノ難ニカニワテ食物衣類ノ定ラカルニ困ニ孕婦ハ其兒ノ
養フコト歎ハスシテ往々隋胎陰殺ス夫レ人ハ天ノ極テ愛シ
給フコトナリ然ニ經濟ノ道ヲ僭シテナルニ因テ如斯酷虐
ニ遇フ不亦悲乎早ク省察シテ其過テ改メサレハ天震

怒ニ必ス此ニ明威ヲ降シ或ハ天禄永ク終ニ至ル此其
恐レ警ヘキノ大事ニ非乎郷等若シ國君及ヒ郷大夫等凡ソ執
政ノ貴官ニ倍用セラル^トアラハ先ツ此ノ一事ヲ説テ奢侈ヲ
警メテ是レ經濟道ノ第一義ナリ○予ガ銘造化育論ノ
第九章ニ精ヲ説タル如ク凡ソ一境ノ國土ヲ領シテ一國ヲ君
タルベキ人ハ皆前世ニ缺ク上天ノ命ニ率^{シテ}仁義禮智性
ヲ存養シテ篤ヲ道德ヲ偕ルテ人ヲ艱難ヲ救ヒ人ノ過
失ヲ補テ天ニ事ルノ功業甚タ廣大ヨリフ以テ上天ノ寵
遇給フ^ト極テ篤ク八百萬神ノ最モ尊敬スル所ナリ

故ニ今ニ此ノ現世ニ人君ト生シ來テ富ハ一境ノ國土ヲ有テ貴
キ^ト教萬ノ蒼生ニ君ニ臨レ氣ヲ熾セテ蓋ヒ勢ノカ山ヲ例
又上天人君ヲ寵榮スル^ト盛ナリト謂ベシ且又人ノ眼ニハ
見得サレトモ數タソノ鬼神アツテ常ニ其前後左右ヲ擁
護シ以テ成靈ヲ冥助ス故ニ人君ニ無禮ヲ為^ツソ^キノハ
暗中人ノ見サル所ト雖ヒ神罰必ス至ル皆ノ是上天ノ寵
過是夕篤ク百神擁護シテ天禄ノ極テ大ナリカ故ナリ 嗎
呼君上貴キ者ナル哉郷等若シ國君ニ見^ルコト有ラハ必ス
沐浴シテ禮式ヲ守ル敬テ禮ヲ矢^{コト}勿レ又郷大夫

ニ生ルニ人亡又前世功業甚タ多ク善ヲ樂ミ人ヲ救ヒタル
積徳願ル大ナルヲ以テ上天是ヲ寵受給ヒテ君ニ亞ヘキノ
貴家ニ上シメ百僚ノ上ニ立テ國人ヲ便合スベキノ天祿
ヲ賜ヒタル者ナリ故ニ郷太夫及ヒ執柄ノ貴官ニモ必ス
慎ニ隨逐ニ守護神アリテ其成靈ヲ冥助ス唯人ノ眼
ニ見得サルノミ郷等此ノ天理ヲ熟察シテ無禮ヲ行
テ冥罰ヲ蒙ルコト勿レ毎々鑄造化育論ヲ續ノ上天
ノ神意ヲ會得スヘシ上天ノ神意ヲ會得セサレハ經濟
小道ヲ脩ルト雖凡善ヲ盡セルモノ非ルトリ抑モ上天ノ

積徳ノ人ヲ尊榮シテ必ス萬民ヲ使令スベキ貴家ニ生シ
シメ守護神マテテ附給フテ冥助セシムル所ヲ以テハ他ナシ唯
是レ仁政ヲ行テ萬民ヲ救ハシムルヲ欲シテナリ且帝タニ
萬民ヲ救ハシムルヲミナラス益其君國及ヒ大臣ノ功德ヲ
廣大ナラシメテ終ニ上天ノ神靈ト爲サンヲ欲シテナリ
古來功德廣大ナル人ノ没後天ニ昇シテ神聖ト爲ルナル
コト其例レ少ナカラス其証ハ下ノ富國篇ニ詳カナリ故ニ
大徳人ハ没後必ス天神ト爲ル若シ其未タ神ト爲スベカラス
者ハ再ヒ現世ニ生シ必ス國君及ヒ萬民ヲ撫御スベキ

貴官ト爲ル其必ス貴人ニ生ル所以テ者ハ益々其
徳ヲ成就セシメテ而後ニ神ノ爲ナリトスルナリ国君及ヒ
執政ノ身ヲ以テ衰ヲ救ヒ徳ヲ爲スハ手ヲ及スヨクモ
^{ヤス}易シ上天ノ積徳ノ人ヲ尊寵スルト至リテ盡セバ故ニ
人君及ヒ郷太夫ノ天ニ代テ下民愛育スベキハ固
ヨリ其職分ナリ然ルニ上天寵過ノ思命ヲモ省モス
放蕩ヲ盡シテ境内ノ百姓ヲ困窮セシメバ上天震
怒ナキトテ得ン乎前世莫太ノ積徳ヲ失ヒ却テ現
世ノ罪惡ヲ累ルトハ惜ベキノ甚シキ者トリ故ニ国家ニ

長タル者ハ仁ヲ施シ徳ヲ修シテ境内ノ百姓ヲ愛育シ
以テ上天ノ寵靈ニ答スレバ有ルヘカラス其百姓ヲ愛育
セシトテ欲シテ先ツ其国内ヲ富騰セシムバ有ベカラス国
内ヲ富騰セシトテ欲シテ先ツ經濟ノ要旨ヲ修メスレハ
有ヘカラス所謂ル經濟ノ要旨トハ既ニ上ニ論シタル
如ク天地ノ神意ヲ奉行スルト大道ニシテ國家ニ王タル
者ハ一日モ怠ルヘカラサルノ急務也○盖シ以^{ヲモシムル}シ凡ノ人
類ニ生テ愛ベキノ靈視ハ何レモ幽冥大神ノニ廳前
ニ於テ天命ノ受ケ而メ後ニ現世ニ出ルモノナリ且、

其人ノ躰ニ依託シ母ノ躰ニ環胎スルモ冥府ノ神卒
コレヲ護送ス所謂ル天命トハ即テ是アリ人タル規則
ニシテ仁義禮智ノ四性ナル者即テ是ナリ是ヲ以テ人
々皆冥府ヲ於テ此ノ天命ノ規テ則受クル覺アリテ此ノ
四性ノ心ノ内ニ備ハサルハナシ冥人ニ於テハ殊サラニ篤キ
者ナリ然レモ或ハ時ニヨリ己レカ體好ヲトコロニ誘ハル
或ハ世ノ習俗等ニ溺シテハ其本心ヲ失フコト有リ若シ
又シ國君及ヒ郷大夫等太平ノ華繁ニ溺シテ驕奢
ノ奉ニ勤ヲ為スコト有ハ郷等缺ク聞悟シメテ早ク

本心ニ皈ラシメシコトヲ務ヘシ小民ノ放心シタハ其ノ害
小ナアリト雖トモ大人ノ放心シタルハ其禍シ極メ奉ク
然レモ國家ニ至タル者ハ一念奮ノ起シテ天命ノ本
性ニ皈ルトキハ其境内ヲ富贍シテ下民ヲ濟救スルコ
ト崇コ、ロヲ及ス如シ且ツ土地ヲ領スル者ノ天意ヲ奉
行シテ國ノ事ヲ經營スルニ及テハ上下ノ神祇皆悅
テ此ヲ冥助スル者ナルヲ以テ國界ヲ偏鄙ナルモ之
地ノ瘠薄ヤミアルニ患ヒトスルニ足ラス氣候ノ寒冷ナ
ルモ物産ノ寡少ナルモ害トスルニ足ラス假令西洋ノ

魚^ロ西^{セイヤ}及^エ七^キ諸^リ瓦^エ利^エ亞^エ等ノ諸夷ノ如キハ遠ク北
海ノ偏^ニ在^テ其本國ハトモニ地緯五十度ヨリ六十
度ノ間ニ係リ氣候甚タ寒冷ニシテ米穀トモニ生
セス物産モ多カラサルニ論ナシ然レトモ彼國ノ酋
長等其ノ食物モ無ク衣類モ無キヲ經營ノ基根
トシテ工夫ヲ疑レ上下一致シテ國家ノ經濟ヲ勉
強センニ因テ漸々國富ト兵強クナリテ今時ニ
ハ世界ニ名高キ富盛國トハ為レリ予熟ラ彼ノニ
國ヲ富盛ニ為クタル事躰ヲ察スルニ共ニ漏上ノ夷

秋アレハ別ニ人ニ勝レタカ智慮アリシ赴ニモ非ン
然レ尺能ク其國ヲ富強クセントハ唯是レ政ヲ立ルニ
簡ヲ主トシ嚴ク無益ノ煩雜ヲ省キ本妻ヨリ外ニ
妾ヲ娶トテ禁シ奢侈ヲ警メ寛和ノ務メ國事ヲ
經營ヲ勵シテ物産ヲ興シ交易ヲ通シテ互市ノ
利潤ヲ収メシカ故ニ夫^レ蠢^ル蠻^夷ノ國也躬髮倫
鄙ノ城ト雖トモ恭儉質素ニ身ヲ謹ミ君民和合シテ
國事ヲ營トキハ一時功業ヲ成スコト有リ況ヤ皇國ノ
版圖ヲ按スルニ西南ハ琉球諸島ヨリ東北蝦夷ノ邊

境ニ至テ北緯二十四五度ヨリ四十八九度ノ間ニ係ル
四方二十餘度ノ海中ニ盤踞シ山水秀麗ニシテ氣
候良和ニ上地膏沃ニシテ物産豊饒ナリ周回皆大
洋ニ臨ミ四通八達ノ要樞タリ航運甚夕便リニシテ
字内混同ノ梟礎悉ク備レリ若シ天ニ時至リ運應
シテ海外經界スルコト有ラル實ニ全世界ノ聰主ナリ
我カ先人此レ等ノ所ニ見ル有リシニヤ天地經緯ノ大道
ヲ講明シ一家ノ經濟學ヲヒラキ先ツ物産製煉ノ
術ノ精究セノ何トナレハ國土アリト雖モ物産與フ

サンハ國家ヲ為スベカウサルヲ以テ也柳モ蝦夷國ノ地面
ハ京師東距スルコト四度餘ナリ處ヨリ起テ東ハ十六
度半許ノ處ニ至リ南ハ北緯四十一度餘ニ起テ四十
九度ニ及ソ長ク絶テ短ク補ハ幾ト皇國內地ノ年ニ
敵ラントス然レニ從來國土ヲ開發スルノ法ヲ講モス
ルヲ以テ今ニ荒蕪ノ廢地ナリ或ハ開穀類ノ諸菜等
ヲ植試者アリト雖モ土性ヲ轉シ換シ氣候ノ變通ス
ルノ妙ヲ知ラザルカ故ニ古ヘヨリ絶テ耕作セシコトモナキ
腐壚膨鬆ノ地ニ法ヲモ行ハス直ニ種子ヲ蒔キ苗

ヲ植工宜ナル哉其成就スルヲ無キ故ニ我カ祖父不
咏軒翁閑園新書ヲ著シテ二十四番ノ氣候ヲ
變シ通四十八等ノ土性ヲ調化シ煖地ノ物モ寒國ニ
作ルベク寒地ノ物モ煖地ニ作ルヘキヲ妙用ヲ論シ以
テ松前候ニ説キ^解開^発ニ事有ントセリ時ニ松前
ノ執政ニ我カ祖父ヲ^精志スル者アリテ終^果リスシテ
己ス以後若シ蝦夷國ノ開拓スル^ト有ラハ皇國隆盛
ニ向^テ端^ニ倪^{ナル}ヘシ然レ^モ今時ノ如ク太平永ク繼^キ
國君モ御太夫モ唯華奢富麗ヲ樂ニ安送ニ耽ル最

中ナレハ國土ノ經營等ニハ心ヲ用ル者鮮ヒ且又我家
ノ学ハ嚴ク奢侈ヲ警テ唯耕農ト百工等ノ勵マレテ
土石草木活物ノ三種ノミヲ講シテ文雅ノ事^勵ム
風流ヲ取扱^フツナケレハ儒者スラ尚是ヲ忌嫌^ク況ヤ
洒落ヲ士太夫ニ於テヲヤ今郷等カ請ニ因テ經濟道ノ
概畧ヲ述ルト雖トモ又極テ世ニ用ヒラレサルノ書ナル
コトヲ知ル然レ^モ其論シタル所ノ意味ニ至テハ倭漢
神聖ノ經ノ典ヲ陶ヲ汰シタル精粹ニシテ國家表徵
ノ病根ヲ除ト萬民貧窮ノ苦痛ヲ去ルニハ此ノ上ニ

無キ民、藥ナリ唯夕其味ヲ極テ苦ロキヲ以テ、能ク
服用スル者無カラシノミ若シ能ク此ヲ用ル者アラハ
其境内ノ元氣ヲ盛ニシ、固^ク躰ノ疲労ヲ補ヒ其勢
威ヲ強クスルコトハ五年ヲ俟カルヘシ茲ニ創業開物
富国壅統四篇ヲ筆シテ以テ經濟ノ大要ヲシメス
郷等ヨリ熟讀シテ先ツ天地ノ神意ヲ推察スヘシ
天地ノ神意ヲ能ク知り得テ然メ後、有土ノ君ノ
聘スルコト有ラハ此レヲ補^フ依シテ境内ノ民ヲ救ヒ以テ天
思ノ萬一ニ報セヨ君シ夫ニ天ニ^{ツヨク}奉ルノ本心モ無クシテ

唯妄ニ其国ヲ富ス策ヲ立ル者ハ是レ經濟道ノ妖魔
ナリ

創業篇

創業トハ開物ノ業ヲ創ルラズコト所謂ル開物ト田土ヲ
經營シ物産ヲ開発シ境内ヲ富饒ニシテ人民ヲ蕃ノ
息スルノ業ナルヲ以テ即テ天地ノ神意ヲ奉行スルノ
事ナリ今夫レ太平二百餘年皆萬物敏^ニシテ別ニ
開クベキ物ヲ無キカ如シ然レモ尚偏土ノ民ハ食物
衣類ノ足ラサルヲ困ニテ己カ産兒ヲ養ハセル者アリ然

シハ訖ニ開タリト称シテ此レヲ棄置ベキノ義理アラシ
哉假令境内頗ル富厚ニシテ赤子ヲコロサルノ土地ヲ
リトモ我國ハ最早ニレニテ足レカトシテ其ノ上ノ善
政ヲハ悉ク皆打瘡^{ステ}ベケン予昔シ予故アリ一回侯
ノ太夫ニ倍從シ其國ニ至リテ滯留セシト有リ故其
國ノ事ヲ躰ヲ審ニ探クシニ物産繁多運送便利ニ
シテ頗ル富盛田ナリキ予一日城外ニ遊ヒ老農ヲ家
ニ憩テ此ノ國ノ雜談ヲ聞シニ此ノ城下ニテ孕婦墮胎
シテ兒ヲ殺ス一歲々一萬ニ餘ルト云一夫レ富盛ル國ス

ラ斯ノ如シ況ヤ貧國ヲヤ國家ニ君トシテ國人ヲシテ
茲ニ至ラシム可謂仁乎人唯レカ己カ子ヲ愛セサラン
然レモ貧ノ甚シキニ至テハ往々己カ子ヲ殺ス可レ不憚
哉可不救哉若シ夫レ此レヲ救ハントヨ欲セハ百姓ヲ^{ニキヤカ}贍
如クハ無シ百姓ヲ贍ハサントヲ欲セハ開物ノ業ヲ創ル
ニ如クハサン而ノ其ノ開物ノ一ハ何レノ國モ古來勤ルト
クントモ百姓ヲ贍給スルト餓ナル者ハコノ字ヲ諱
明セサルヲ以テ人々皆心ヲ澆季ノ浮華ニ蕩シテ
太初ノ素朴ヲ知ラサレハナリ故開物ノ業ヲ

創シト欲スルニハ先ツ國土太初ノ素朴ヲ熟知ス
ルヲ要トス何トツレハ素朴ハ善政ノ基ナルヲ知ラ
サレハ繁華奢靡ノ世ニ當テ家政ヲ改革スベキノ
時務ニ暗レ若シ夫レ家ノ政ヲ改革スヘキノ機會
ヲ失フトキハ開物ノ創ムベカラサルノミナラス境内
ノ人氏凍餒スルノ原ナリ凡ソ國土ノイマタ開カ
ル初メニハ何レノ國モ山谷平原皆以テトシテ草
茂リ會獸居リ鳥類群スルノミ人ノハシメテ生ス
ルニ及テ飢レヘ即テ草木會獸ヲ取テ此ヲ食渴

スルハ即テ水ヲ飲ム然レモ未タ火食スルコトヲ知ラス
唯生ニテ食スノミ人類ニハ羽毛ナキヲ以テ風寒ヲ陵
クコト能ハス乃テ鳥獸草木ノ皮ヲ剥テ此レヲ衣ル
且ツ又雨露ニ堪リコト能ハサルヲ以テ夏ハ木ノ上ニ巢
ヲ造テ此レニ栖ミ冬ハ土坑ニ居レリ此レニテ衣食住
ノ三事畧備リテ各々性命ヲ保續スルコトヲ得テ於
是乎男女合歡ニ兒孫ヲ漸クニ蕃生セリ國土開基ツ
初メニハ何レノ國モ皆此ノ如シ是レノ時ニ當テ唯カ美
食美暖珍玩高堂等ノ奢侈ヲ爲スコトヲ知ラニヤ上ノ

總論ニ説タル如ク人間ニ生ラ受ル者ハ皆天命ヲ
四性ヲ禀テ生ル者ナルカ故ニ其本心ノ善ナリテ
ルモノハ一人モ無キコトナレ凡所詔飲食ノ衣服キ
住處ノ三箇ハ必ス闕クテ缺ハズルノ需ナリ是各々
ノ性命ハ保績スル所ナレバナク又男女ノ交接シテ
飲テ合スルモ又人類ヲ蕃スヘキヲ妙機ニテ天地
ノ神意ヨリ催促シテ起コトナレハ此レ又無クテ叶
ハサルノ一大事ナリ故ニ衣食住必ス需ノ欲ノ男女
合歡互求ルノ情トハ天地ノ神機ヨリシテ催スルノ

念ナルヲ以テ一ツモ闕ヘカウザル所ノ定紀ナリ然レ凡
教ノ未タ立タサツシ前ハ動モスレハ情ト欲トノ已ム
無キニ惑溺シテ其ノ本心ヲ失セ天理ニ乖キタル以テ動
ヲ為ス者アルハ群小ノ通リ弊ナリ故ニ人ノ益々多ク
滋息スルニ及テハ爭擾ナキテ能ハズ人々其本心
ヲ失ヒテ欲ト情ニ溺ルニ至テハ或ハ食物衣類ヲ
爭テ闘^{タガ}シテ為シ或ハ居處ヲ爭ヒ婦女ヲ爭テ闘^{タガ}
ヲ為シ爭ヒテ己サルトキハ必ス其缺ク曲直ヲ断スル者ニ
就テ命ヲ聽ク本性ニ明カナル者ハ乃テ其惑溺スル者ヲ

教化シテ本性ニ復ラシム故ニ義理ニ明ナルモトハ人
ヲ服スルノ心ス多シ若シ夫レ此レニ若ルニ天理ヲ以テ
スレヒ兇暴畏ニシテ教ニ服レオレハ痛ク此ヲ刑罰ス而
メ後ニ兇暴畏伏ス是レ君長ノ始ニシテ政教ト武
備ノ由ニテ起リシ所ナリ故ニ君ト云フ者ハ人民ヲ教
化シテ天命ニ率^{シカハ}シムベトノ師役ノコトニテ畢竟ノ萬
民尅虐ノ難ヲ救ハンカ為ニ天ヨリ建タルトコナリ
若シ夫レ國家ニ君ナクハ爭亂ノ林時アラシヤ此レニ
因テ教多神聖天命ヲ受テ人世ニ降誕シテ君

師ト為リ種々人ヲ濟ノベキ策ヲ出シ山ヨリハ美玉
金銀銅鉄錫鉛等ヲ出シ水ヨリ魚鱉蝦介蘊ト
藻等ヲ出シ上石ヲ焼テ陶器ナシ銅鉄ヲ煉テ諸カ
諸器錡釜鋤鋤ノ類ヲ作り河流ヲ灌漑ニテ水
田諸穀ス時キ平原ヲ^{カキ}耕シテ白田種子ヲ植潮
水ヲ煮テ塩ヲ製シ木ヲ斫テ棟杲ト為シ^{ヤシ}葺^{ヨシ}葺^ノヲ
川テ屋舎トナシ葺キ乃チ穴居巢樞ヲ止テ始テ空家
アク稻粱ノ蒸テ飯トナシ諸菜ト諸肉トヲ煮テ羹ト
為テ始テ生食ヲ止テ火食ヲ知ル又桑蠶宗麻織縫

ノ業ヲ興シ始テ鳥羽木菜ヲ版ヲ止テ布帛アリ諸穀
百果ヲ釀シテ酒醬ヲ造リ竹麻楮皮ヲ縻シテ紙
類ヲ渡キ其他藥物茶香染料油膏月烟草等ヨリ
舟車諸雜器ノ製法マテ考ヘ出シ水陸運送ニ自
在ニナリ凡ソ人可日用ノ萬物悉然トシテ皆全備
シ今ノ世界トハ為リタルナリ孔子曰昔者先生未
有宮室冬則居營窟夏則居橧巢未有火化
食草木ノ實鳥獸之肉飲其血茹其毛未者麻絲
衣其羽皮後聖有作然後修火之利范金合土

以為り臺榭宮室牖戶以炮以燔以烹以炙以為
醴酪治具麻絲以為布帛以養生送死以事上
帝鬼神皆從其朔ト是ナリ何レノ國モ太初ハ皆ノ
此ノ如クナル者ニテ質素ナレハ質素ナルホト世者渡リ
易キ者ナリ然レ凡總論ニ説タル如ク人情ト云フモノ
ハ鬼角ニ奢侈ニ長シ易ク所謂ル國君萬民ノ困
窮ヲ救ハンカ為ニ是タルモノナレ凡其天祿ノ極メテ富
盛ニシテ威勢ノ尊榮ナルヲ以テ勤モスレハ萃麗蒙
奢ノ魔道ニ陥リ易シ故ニ古聖人モ深ク此レヲ慮

リ従ニ具朔ト云ヒ置レタル具朔トハ太初ノ質朴ヲ云ク
澆季ノ繁華富麗ナル世ニ為リテモ具朔ノ素朴ヲ
忘レウラレトテ欲ス是レ仲尼ハ百代ノ師タル所以ナリ
御等能ク太初ノ質朴ヲ熟察シテ儉素ヲ固君トシ
勸ル、即テ天地ノ心ヲ奉行スル大業ヲ創ナルヲ知ル
ベシ何ントナレハ生民ノニ日モ無クテハ叶ハサルモノハ食
物衣類居宅ナリ此ノ三ツノモノ備ヘハ人民其性
命ヲ保續スルヲ缺ス故ニ經國ノ業ヲ創ントスルニ先
以儉素ヲ務メテ下民ノ衣食住ヲ全備シ而メ後ニ物ヲ

関キ交易ヲ通シ以テ國家ヲ富盛スベシ所謂ル下
民ノ衣食住ヲ全備ルトハ國又ヲシテ各々職分ケ勉
強クセシムルヲ云フ士農工商其事同シカラスト雖トモ
各々由漸スルヲ無ク自業ノ家業ヲ勵ミサスレバ衣食
住ハ自然ニ備ルモノナリ但シ其病難告災等ハ運命ニ存
薄ハ別事ノ國君ハ天ニ代テ境内ノ民ヲ養フ者ナリ郷太
夫ハ君ニ代テ政令ヲ行ク者ナリ宜ク職ヲ分テ各々其事
ヲ脩テ萬民ヲ率テ同事ヲ勉強クスヘシ若シ夫レ上タル
者ノ逸樂ヲ女ムトキハ下民ハ皆游惰ノ俗ヲ為シテ田畠

悉ク荒廢シ皆境内 貧^ハ窮ス民事ハ莫ニ不可緩者ヲ
一天不耕有^ニ迫 飢者一不婦織有受寒者當然ノ理也
國家ニ長タル者ハ勤スレバアルヘカラスコトナリ尚書之ク
無^レン^シ教逸^{タモツハ}欲有^レ邦荒々業々一日二日萬^{ハナリシウケル}戕無^ク曠^ク廢ノ宮人
工人其代之ノト即テ是ナリ○凡ソ國家ノ盛衰ハ唯夕
是^レ其君ノ儉素ヲ 守ト奢侈ヲ放ニスルノニ事 係ノシ
故ニ其君少シク儉素ナレハ少ク其國富盛ノ大ニ儉素
ナレハ大ニ富盛ス又奢侈ナ^ク其國ノ表徴スルノ理モ又此ニ
同キノミ是ヲ以テ奢侈ハ亡國ノ基ニシテ檢素ハ創業ノ

原ナルコトヲ知ル 郷テ若シ諸侯ノ國ニ聘セラル、コト有テハ
務テ奢侈ヲ警テ其君ニ儉素ヲ修ノヨ國君前世
ノ積徳撫テ廣大ニシテ上天ノ寵給^ル所ナルヲ以テ其心
ノ是夕直ナル者ナリ故ニ天地ノ神理ヲ講談シテ經濟ノ
大道ヲ説ト示スルハ大^ニ裨皆感憤涕泣シテ木性ノ良智ヲ
發シ善ニ誘^フコト是夕易キ者ナリ且ツ又既ニ天地ノ神意ヲ
知リテ一國ヲ民ノ父母タルノ理ヲ悟リ得ル 及テハ自身ヲ
難苦モ顧スレテ義ニ勇ニ仁ニ進ムコト極テ篤ニテ下輩ノ
者ノ絶テ企及^スバベキ所ニ非ズ君子ノ本心ト云フモノハ信

ニ純粹至誠ニシテ天地ノ神ト同躰ナリ可不尊敬我
然レモ亦畏レ慮スベキノ一事アリテ仔細ニ撰用ヘキノ
近習ノ諸士ナル哉何シトナレハ人君ト云フ者ハ胎ノ内ヲ
出シヨリ深宮ノ内ニ成長シテ飢寒ニ迫リシトモ無ク
農使ニ困ミシトモナキカ故ニ何ホド總明ノ主ナリト
雖モ浮世ノ渡リ難ク人事ヲ陰惡ナルコト躰ニ通スベ
カウス且ツ又仁心深ク正直ノ過クル所ヨリシテ人ノ言ヲ
信シ易キモノニテ若シ側ヨリ我君ニハ總明ニ坐屠
智ニ坐スナド、此ヲ頌ノ讚スルトキハ或ハ其称誉ヲ信シ

テ実ニ明智アリト思フ類アリ故ニ国家ノ大事ノ動
スレハ君ノ側ニテ毀敗コト多シ不可不_テ畏也萬一近習ニ阿
諛ノ佞臣アリテ其君ノ驕慢ノ心ヲ誘_テ惑_スニ至リテ其本
心ノ明德ハ忽テ暗黒ト爲テ不徳ナル行ノニ漸クニ
增長シ終ニハ數萬ノ蒼生ニ君トシテ一境ノ國ヲ領
スル天禄モ大半階落シテ實人ノ金銀ナトヲ借斃シ
百姓ノ米錢等ヲ剥奪テ其ノ歳ヲ渡ルヤウナル淺_ク狻_{シキ}
身ト衰ル者ナリ故ニ近習バ別シテ忠諫ヲ勵ムヘシ己カ
君ヲ莫明ニスルト愚暗ニスルノノ分岐ハ大抵君側ニ忠

諫ヲ勵ム人ノ有ト無キトニ係ル者ナリ尚書云フ僕臣
正厥ノ后克正僕臣諫厥ノ后自聖ト即ニ是ナリ所謂ル僕
臣トハ近習ノ諸士ヲ古ノ孔子ノ侮人ヲ遠ナヨリ教ヘラレタルモ
阿諛人ハ一時君ノ心ヲ悦ハシムルノ小忠ヲ為シテ千歲回
家ヲ壞ノ大患ヲ為スラ畏レバナリ近習ニ忠諫ノ士ナケ
レバ願ル英明ノ君ト雖ハモ或ハ等ヲ誤ルコトアリイハンヤ
庸主ノ君ニ於テヤ故ニ當國安民ノ大業ヲ創テ天地心ヲ
奉行セルト欲スルニハ必ス忠諫ヲ近臣ヲ得ルヲ首トスル
コトナリ○昔シ
東照神君ノ上總ノ末金御鷹野ノ

砌リ供奉ノ御女中ハ何レモ葛籠馬ニ駕シテ蒲團ニハ
苙染ノ木綿ナリシトフ上總ノ回ニ入ルニ及テ御膳所ノ御
汁ハ玉味噌ニテ味ニ鹹ク淡ク其臭醜コト甚タシク若
御女中等ハ別テ此ノ味噌ニ困テ五六日斂モ喰スルコ
能スシテ共ニ憔悴テ憔悴タリ神君御女中ノ
懔然ナルヲ御覽シテ怪ミシテ其故ヲ問ヒ給御女
中皆泣テ玉味噌ノクナキヲ訟フ神君點頭セ給テ
今多作左衛門御相談アルケレハ作左ハ眼珠ヲ剥
出シ声ナアラゲ羨シテ云ク新關東ニ遷テ足モ

未夕温マラカルニ君ニ早キ女等ノ機嫌ヲドラント思
召カト 神君此ノ一言ニ是夕愧テ入ラセ給テ辱ク作
左ニ謝シ給フト去ラ夫レ 東照神君ハ古來明君
中ノ最モ傑出セルニテ殊ニ能ク儉素ヲ守ノ賊用ヲ
富^ミ膽^シ給ヘリ然レ凡作左ハ尚其華費ノ增長セン
コトヲ畏レテ此レヲ直諫ス君ニ事ル^ル作左カ如ハ信^ニ其
君ヲ敬ヒ愛スルノ大忠ニシテ國土無双ハ是ナリ
神君ニハ斯ノ如キノ思心多カリキ故ニ能ク其國家ノ
隆盛ニシテ無窮ノ鴻業ヲ成スニ至レリ蓋シ國初ニ忠

臣多カリシ^ハ 神君ノ忠諫ヲ好マセラレ直諫ノ
士ヲ愛サセ給フカ故ナリ孟子ニ曰ク上ニ有^ル好者下ニ必ス
有^ル是焉者矣ト實ニ至言ナリ昔シ楚國ノ王細腰ヲ
婦人ヲ好ミシ時ニ彼ノ國ノ女子餓死セシ者多カリシト
云ク若シ天シ國君阿ク諛ヒテ機嫌ノトル者ノミヲ愛シ
○諫ノ士ヲ罪スルモノ有テハ一家中皆佞媚タル言ノミヲ
獻^ル人々競ヲ佞ヲ勞シ我ヲトラシト諂ヲ妙ヲ極ル
ヲナクベシ誰レカ救テ忠直ノ言ヲ吐タス者アラシヤ故ニ
國君忠義ノ士ヲ得ル^ルヲ欲セハ務テ直諫ヲ好^ミ直言ヲ

士ヲ厚ク賞美シテ是レヲ親愛スベシ能ク忠諫スル者
ヲ愛スルトキハ國人競テ忠義ニ勇進スル者ナリ此レヲ創
業ノ根柢トスル

○予開物ノ法ヲ明ニセンコトヲ欲シテ遍ク五畿七道ノ諸列
ヲ游歴シテ國々ノ土性ト氣候ヲ考ルノ餘瀾ニ傍ラ
列國ノ風俗ヲ巡覽シ且ツ其民ヲ聞キ竊テ日本全
國ノ事跡ヲ熟察スルニ凡ク西南諸列ハハヤク
開ケタルヲ以テ諸事行届キ開物ヲ業ニ於テ遺業
アルモノ少シ東北諸列ニ至テハ國土甚ク^ワ雅シテ遺

利テ多シ然レトモ國土ノ虛實ヲ以テ其輕重ヲ論スル
ハ東北ハ重クシテ西南ハ輕シ是レ西南ハ東北ヨリ頗ル奢
侈ナルカ故ナリ且又銀札ヲ用ルノ國ニ至テハ境内極テ
空虚ナル者多シ何ントヤレバ金銀ノ代ニ紙札ヲ用ルカ
故ニ己レカ國內ニハ金銀ノ代ニ札ヲ遺リ真ノ金銀皆
他國ニ出テ去ルヲ以テナリ銀札ハ虛利ノミ有テ實ニ禍
為スコト此レヲ以テ察ベシ萬一不虞アルノ時及テハ必至
ト窘急ニ迫ルベキハ此ノ銀ノ禍ナリ抑モ此ノ銀札ヲ製
スル初ニハ凡ク金十萬兩分ノ札ヲ製スルハ必ス真金十萬兩

ヲ積ニ置テ其ノ引替ル時ノ料ニ備ルテ法ナリ最初問
ハ法ヲ如クニ直金ヲ備タル國モ江戸ニテ賤用ノ手筈久
時ハ先ツ此ノ金ノ在ルヲ我物顔シテ或ハ千両出シテ
ハ此ヲ遣ヒ或ハ二千両出シテハ此レヲ遣ヒ漸々ニ皆コレヲ
用ヒ盡シテ今ハ金藏ハ懸整ト為テ壁土モ剥落テテ
大ノ出入スルヤウニナリテ有ル國多シ故ニ金暮ニ季他
國ノ賈人掛取ニ來テ大金ノ拂ヲ出スニ及テ國內ニハ
紙札斗ニテ直金ナク俄ニ勝手役人金ノ文^{サイ}覺クニ大
坂ニ赴ト大駭キナリモノナリ且又或ハ分外ニ金ヲ遣

棄シテテ欲シテ今新ニ銀札ヲ製ランコトヲ願ノ國モ
有リト云フ大ナリ矢策ナリ從來用ヒキタリシ國ハ虎
ニ騎タル勢ニテ今更急ニモ止リ唯ケレトモ新願ニ國
ニ至リテハ一桒アルベキコトナリ從來用ヒキタリシ國
ト雖モ富國安民ノ創業ニ志シサヘアレバ此ノ又止ガタ
キノコトニモ非ス郷等ヨク勘辨スヘシ又東北ノ諸列
ニ銀札ヲ用ルモノ解シ此レモ先年ハ用ヒタリシモ今ハ
大抵崩壞止メタル由ナリ然レモ近來米札ヲモテエル者
ト兩替屋ノ預リ札ト名クル者アリ此モ亦銀札ニ近

キモノナレバ銀札ヨリハ其禍少シ然レバ此レ等ノ諸
件ニ皆共ニ其ノ国ノ衰微スルノ一端ナク土佐ノ国ハ政
令甚タ嚴正ニシテ痛ク奢侈ヲ警メ固ク浮華ヲ
禁故ニ其國瓜極テ質朴ニシテ萬民ヨク其家業
ヲ勤ム南海ノ諸國皆何レモ銀札ヲ用サル者ナキ
ニ獨リ土列ノニハ嚴ク此ヲ禁シ凡ソ貨物ヲ賣買ス
ルニ悉ク錢ヲ用テ金銀ヲモ用ルコト稀ナル故ニ人
高ノモノ買ント欲スルトキハ必ス錢ヲ數多馬ニツケテ
出テ行クコトナリ國ヲ治ルコト土列ノ如キハ道ニ近シ

ト云フベシ

○近來何レノ國モ豪富ナル民ヲ尊敬シテ是夕貧
窮ノ民ヲ輕シス是レ大ナル誤ナリ何ントナレハ貧民
ハ國家ノ害ヲ為ス事少シ然ルニ豪富ノ民ニ至リテ
ハ國家ノ禍ヒ為スコト極テ大ナル者ナリ其仔細ト云
ノハ豪民ハ其富盛ノ勢ニ乘ジテ數十家ノ産ヲ兼
從ス故ニ小百姓ノ病難禍災等ニ過テ困窮スル者
ハ田畠モ家屋數モ悉ク皆豪民ニ買取レ佃客ト
為メ流民ト為テ終ニ化國ニ離散スルニ至ル故ニハ

歳饑ニモアラスシテ百姓ヲ飢寒^ハ迫^テレムルモノハ
豪富ノ民ナリ其福モ極メテ大ナルニ非スマ^ハ予遍
ク諸国ヲ巡覽シテ熟ツラ此レヲ考ル享保ノハジメ
我カ祖父不味軒翁ノ游歴中ニ記ス所ノ人別ト
此ノ文化ノ赤年ニ予カ数算タル所トヲ比較タルニ
甚夕廣大ニ減少セリ困ニ因リテハ増加タル處モ無キ
ニ非スレトモ實ニ驚^バキノ表耗ナリ今夫レ諸国
ノ郷里ヲ審ニ閱スルニ小民ノ豪家ニ兼併ラレハ既
ニ其産ヲ失ヒタルモノ將ニ十中ノ三四ニ及ハントス田畠益

々荒レ户数ノ益々減少スルハ皆此レ豪家農ニ吞
併セラルカ為ナリ然レトモ举世富人ヲ尊敬シテ小
小民ノ流散スルヲ省ス人民繁息スルノ缺ナル所以
テナリ獨リ日向ノ缺肥俟ノ国ハ古來制度嚴肅ニシ
テ田畠ヲ始メ山林野廣ニ至ルマテ悉ク皆田君ノ有
ニシテ絶テ百姓ニ委スル^テ無シ故ニ一日富ヲ致ス者
有ト雖^レ他ノ産業テ兼併スル^テ能ハス是ヲ以テ
豊家ノ秀タルモ鮮ク又飢寒ニ迫ル民モナシ是
レ漢土^{カラクニ}曼^ハ周三代ノ世ノ井田法ヲ去ル^テ遠^{カラ}ス

實ニ國家ヲ經理スヘキノ本躰ニテ珍重スヘキノ法
ナルヤ然レ凡唯夕具田畠山林等ヲ民ニ兼儀寸セサルノ
ミニテ富國安民ノ經濟學ヲ講セサルハ國君ニモ
百姓ニモ共ニ不便ナル者ナリ噫嘻此ノ國ニ斯在善法
ノ存スル上ハ缺ク經濟ヲ要道ヲ修シテ其ノ國事ヲ經
營セハ土壤廣カラスト雖モ天下第一ノ善政國ナルベシ
○日向延岡候ノ國ハ土地頗ル廣ク歛肥領ニ倍シ然レ凡
此國ハ田畠ヲ始メ森林山澤原野百來皆百姓ニ委
テ賣買セシムルカ故ニ山林ノ諸材木マテ領主ノ自由

ナラザルコト多ク國君唯夕具年貢ヲ取ルノミノ様子ニテ
恰モ村々ヨリ給金ヲ買ニテ暮ス大名主ト稱スルノミ
似タリ政事ノ寬ニ過タリト云ベシシカルニ工民百姓等
斯アル寬政ノ國思フ蒙リテモ其厚ヲ知ラスシテ各
自懶惰放佚ナルモノ多ク下民ノ富實ナル赴ニモ
非ス且ツ此ノ國ノ境城南ハ同州高鍋ニ連リ北豊後
ノ竹田ニ界シ西ハ肥後ノ球磨郡米良山中及ヒ阿蘇
ノ南境ニ大分相接シ山深ク谷遠シ東ハ悉クノ大
海ニ臨ミ且ツ境内ニ流水數多アリテ運送ノ極ノ

便ナリ 氣候溫暖ニシテ 土性モ亦惡カラス若シ閑物
ノ業ニ從事シテ心ヲ盡シテ 国事ヲ經營スルモノ
ナラハ物産ハ夥シク起ルベシ予天下ノ游歴ニテ遍
ク諸侯ノ封城ヲ觀ルニ此ノ国ノ如シ遺策ノ多キハ
稀ナリ 寬ノ過タルハ放埒ニ近ント知ルベシ

○會津ハ政事 是夕嚴密ナル国ニテ 凡ソ境内貴戚
悉ク衣服ニ上下ヲ辨別アリテ各々衣服ヲ見ハ其ノ
人ノ格式ヲ知ルベカシム且又此国ノ内 松杉 扁柏 榧
等 諸木ヲ悉ク 国君ノ用木ト称シテ 假令ヒノ百

姓ノ屋敷内ニ自植タル木ナルト雖モ此レヲ代ラント
○スル時ニハ願ヲ立テ代金ヲ上納シ而メ後ニ此ヲ代
ルヲ許ルス若シ私シニ代ル者ハ皆必ス罪ニ行ノ漆
木ニ至テハ殊更ニ制度有テ村々ノ漆ノ木ヲ蕃附ニ
分テ此レヲ其處ノ百姓ニ預ケ置キ毎年秋ニ至レハ檢
便ヲ出シテ漆實ノ審録シ其ノ斗量ヲ明辨テ此ヲ
其ノ預入ノ百姓ニ課セ其多少ニ從ヒ蠟ヲ持リテ賣シム
其事頗ル廣大ナリ 故ニ會津ハ山間ノ遍土ノニテ谷
川ノ流レハ溜渚シテ湖ヲ為シ諸物ヲ運送スベキノ海

河モナク極テ不自由ナル国ナレトモ右等ノ制度ノ
密ナルヲ以テ国事ヲ經營ニ遺策ナク祖税ノ年
額多クラスト為ス且ツ缺ク四民其業ヲ勵シ百工ノ
興ルヲ移シクシテ国勢モ亦頗ル強ク其風俗ノ質朴
ナルヲ日本總國ニ於テ第一二等ニ下ラス是以テ土地
豊饒ニ非スト雖トモ下民困窮ニ迫ルニ至ラス皆此レ
國祖^{マナユキ}正^{マナユキ}之君ノ遺徳ナル哉

○米澤ノ先主上杉^{マサカネ}彈正大弼治憲君一日津山候ノ鍛冶
橋ノ^{ヤシキ}卯ヲ訪ヒ津山ノ諸士取次ヲハジメ皆綿服ニテ

勤仕ノルヲ勸テ其夕此レヲ感歎シ是ヨリ米澤ヲ諸ノ士
皆綿服勤ヲ命セシトテ是時ノ津山候ハ越後守康致
君ニテ^{マナユキ}願ル英明ノ主ナリキ此レヨリ前ニ津山ハ懸^{マナユキ}磔^{マナユキ}ヲ
如クナル貧國ナリシカ老臣ニ原金太夫政廣ナル者アリテ
此ノ君ヲ佐ケ缺ク儉素ヲ脩メシテ因テ境内漸クニ充
實シテ萬民業ヲ樂ニ富厚ノ國トハ為レリケル又是時ノ
米澤候モ嚴ク質朴ヲ務メ國家ヲ經營シテ種々物
産ヲ興シ百姓ヲ惠愛シテ如々ノ堤防キ起シ以テ
備ヘ且藩中諸士ニ命シ各々思附ノ百工ヲ勉強セシム

於是乎境内日々ニ充實シテ困窮スル民ノナキニ至リ
治憲君ハ位ヲ舍弟治廣君ニ讓リ後ニ米澤回許ニ隱
居セラレ城外ノ間静ナル処ニ坐ナル草舎ヲ補理ハ老女
一人及ヒ家士ノ老斗ナル者ト幼斗ナル者多病ナル等十
餘人ヲ附トシテ出勤スルモ勤ルヲ能ハサルモ時ノ様子次
弟ニセヨトノオホセツケノ慈命ナリシトソ云フ
竊ニ民談ノ聞シニ近頃コウキニ隱居近侍ノ老士一テ豪家ニ
來テ浴ユテセンコト有リシニ古キ桃色木綿ノ襯衣晚テ机上
ニ置キ浴後ニ茶シク其襯ヲ戴テ着ル怪シニテ其故問

ノ老士對ヨリ此ハ隱居君御襯衣ナリシガ紅物ハ老人
ニ宣シト仰ラレテ我ニ賜ヒ所ナリト豪家ノ主人大ニ
驚テ乃テ著クル小袖ノ晚テ木綿古衣ヲ著換ヘ老
士ニ謝シテ云ク固君ノ尊ヲ以テ質素ヲ脩メ給フコト此
如キ平トテ感泣數刻及ベリ時ニ此豪女子ヲ人ニ遣
トテ數多ノ美服ヲ支度セラレ皆悉ク此レヲ止テ木綿
振袖ニテ嫁セシトウ所謂ル徳之感物莫做不レ届モノ
ニシテ人テニ至テ米澤ノ境内民士ヨク業ヲ勵シテ風
俗他ニスグレテ美ナルモノハ治憲君遺徳ナリ

○竊ニ聞ク十萬石高ノ諸侯近頃其息女ヲ二十萬石
高ノ諸侯ニ嫁スル約ヲ極メ其婚禮ヲ華美ニセシコト
ヲ欲レシ八年前ヨリ家録ノ士六分通リトリ上ケテ
吳支度ヲスルヲ云々洩季ノ流弊ニ墜イ例セラレテ
己ヲ得ナル勢ナレトモ一人リノ女子ヲ榮耀ニセンカ
烏ニ一國ノ士大夫ヲ飢寒ニセシムルハ可悲ノ事ナリ
恭平ノ御代ノ難有サハ斯在大体ナル諸侯テモ其
回ラ矢フニモ至ラサルハ偏ニ東照神君ノ大徳
ニ頼ル然レモ驕慢奢侈ヲ^{ホウ}縦ニシテ士大夫ノ困窮ヲ

顧ガルハ神君ノ罰ヲモ給フ所ナリ早クアラタメ悞
カレハ必ス神罰アラシク不畏哉凡ソ婚禮ヲ華麗モ
ント欲スルモハ教多ノ侍女ヲモ連行トニテ費用ノ費ル
ト夥シク終ニ國家衰微ヲ基スルト多シ且其息
ヲ引取ル固モ支度華奢ニ侍女教多ナル時ハ何レ其
後宮ヲ廣大壯麗ニシテ此レヲ待請サルヲ得ス其館ヲ
廣大壯麗ニシ教多下女ヲ養フトキハ諸事皆漸々奢
侈ニナリテ分外ノ費用ヲ費スヲ以テ其國モ亦或ハ困窮
ニスルヲアリ然レハ則テ一人ノ女子ヲ愛シ驕慢ニ因テ兩國教

萬ノ人民ヲ痛若セシムルナリ上下ノ神祇ノ震怒ナキ
ヲ得レ哉故ニ國家ニ君タルモノハ務テ恭儉ノ心ヲ存シ凡ソ
賤用ノ出ルハ慎ニテ此ヲ郷大夫ト議リ分限相應ノ礼
儀ニ従フヘシ時務ヲ察スベキヲ殊ニ專要ナリ郷大夫モ
亦能ク其分限ヲ審ニシ分ニ過スルハ假令君侯
ノ欲スル所ナクトモ固ク此ニテ爭ヒ止テ君ヲレテ驕慢
奢侈ノ罪ニ陷ラシムルヲ勿ルベシ君レ夫レ君ノ過アル
ヲ諫靜セシテ分ニ過タル舉動アラシムルトハ必ス其
國家ヲ墜落ス故ニ郷大夫ノ弟佖阿諛スルモノヲ祿職

トハ名クル也又玄明萬公羽日ク諸侯其國ヲ困究スル
ハ太極侍女ヲ多ク養フ故ナリ此レ又信ニ知言アリ今マ
夫レ魯西野ハ世界無双ノ大國ナレ其國王ノ后下女
七人ニ限ルト云フ故ニ彼國次第ニ富盛ナル因テ熟ラ
按スルニ百萬石ヲ領スルトモ侍女七人有ナラバ聊事足
ヌベシ此レヨリ多ク養フ者ハ奢侈驕慢ニ屬スルノミ

○近世無双ノ英傑トモ稱スベキ領主ハ奧列島ノ城主
本多彈正大弼忠壽君ナリ此ノ後モ最初ハ頗ル貧窮

ニ君ヲレシ由ナリシカヨリカ又玄明萬公羽奧列遊歴ノ砌

ッ予カ父ヲ泉ノ館ニ聘シテ 經濟ノ道ヲ開カシテヨリ
嚴ク恭儉ニ徳ヲ修ラレ 其後予カ父ノ江戸ニ出ラレシ
時ニ邱中ニテ度々予カ父ノ講義ヲ聞キ乃テ密ニ奥方
ト国内ノ百姓ヲ救フベキノ諸事ヲ議シ先ツ國家年分
ノ諸入用ヲ仔細ニ節約シテ此ヲ諸老臣ニ賄ハセ君侯
奥方并ニ教多ノ男女公子等總テ奥向ヘ斗テ諸
雜用ニ金四百五十兩ヲ定メ君侯ト奥方ト自親此
ヲ賄フニ極ノ放ニ是ニ女中共數十人有シカ皆相應ニ
物ヲ贈リ此ニ結ルニ国内百姓ノ困窮ニ就テ人ヲ使ハサ

ルノ故ヲ以テ皆ノ者モ残ラス長ノ暇ヲ贈リケル女中等
ハ皆君侯ト奥方ヲ仁心ヲ感シ涕泣讚歎シテ其宿々
下レリトブ其後奥御殿ヲ始トシテ長局女中部屋ノ
寺ヲ悉ク毀シテ其跡ヲ畠ト爲シ君侯奥方諸公子
皆一如ノ小部屋ニ褻リテ居住シ唯夕一人ノ老婆ト二人
メ下部男ヲ使レ君侯自ラ朱耨ヲ執リ二人ノ下男ヲ師
セテ右新昌ニ耕ス近習ノ士或ハ坊主等モ時々此ニ加リ松
菜 菜 藤 胡 蘿蔔 苜 十 苜 胡 此 越 此 香 此 瓜 西 瓜 南 瓜
紫 茄 茄子 葱 白 眉 子 豆 裙 帶 豆 薯 蕷 佛 掌 諸

等ヲ作り庭ニハ梅杞梨子林檎栗柿柚子橘子
柿^{ツキ}蒲桃^{トウ}等ヲ作ノ池ニハ鯉鮒鱧^ウ鱖^{トキ}鯉^{トキ}泥^ナ魚^{イサ}等ヲ作り
平日ノ食料ニ餘ル者テハ或ハ親戚ノ音物ニ用ヒ或ハ遍ク
家士ニ賜リ君侯ト下男ハ薪ヲ析ヲ水ヲ汲ニ或ハ諸菜
ヲ採來レバ奥方ト者婢トハ餃ヲ炊キ羔夫ヲ作り或ハ洗
濯シテ衣服ヲ製ス華費ト云クモノハ一錢ニテモ有ル
ナレ比^ヒ皆^ミノ間ハ家士等モ膳ヲ漬^{ヅク}シテ痼^ク疾^{シヤ}ノ狂氣
ジヤト驚キ識セシ輩モ有リシトラスノ如スルト三ノ四
年モ過モ間ニ表方ノ勝手向財用ヲ融通頗ル亘クナリ

タルノミナラス君侯ト奥方トシテ延シ畜タル金子斗リモ
既ニ千両餘リニモ及ベク於是乎一日家中ノ諸士總出仕ラ
申シ付ケ大ニ酒宴ヲ催シテ家中ノ諸士ヲ饗應シ而シテ
其延シタル所ノ千両餘リノ金ヲ出シテ皆ノ者ニ見セ
俟ト奥方ト辞ヲ榻ヲ誥給フハ玄明富翁ノ教ニ從
トキハ絶テ貧窮スルノ理ナレ國君能ク恭儉ニ徳ヲ修シ
ハ國家ヲ富盛スルヲ推キニ非サナリ此ノ金ハ汝等ニ賜
ルベシ自今以後國事悉ク師翁ノ教ノ如クシテ其警戒ヲ
忘ル^レト勿レトテ乃テ其金ヲ家士ノ人別ニ分テ此ヲ賜リ同

テ重テ警テ曰ク汝等若シ師公羽ノ警ヲ志レ茶儉怠ノ
負若ニ迫ルモノ有ハ重テ罪ニ加シ者ナリ其則ニ監ラ後
悔スルコト勿レト此ノ時ニ當テ家中ノ諸士始テ此君ノ徳ト
感服ニ感泣セサル者ハナカリシト云フ予熟々此ノ一ヲ接
翹ニ忠壽君ノ英物ノシナラス奥方モ夕絶世ノ賢夫
人ナル哉白河ノ少將定信朝臣夙ヨリ此ノ侯ノ徳操ヲ
知ラシテ天下大政ノ補佐シ給フニ及ンテ先ツ此ノ
侯薦挙シテ共ニ回事ヲ議ラ給フテ隆治美俗予
内ヲ一セリ噫嘻此ノ萃レ繁糸奢靡ナルトキニ當テ家政

ヲ改革シ素朴ヲ敬守リテ問物ノ業ヲ創ノ国家ヲ
經濟スルニハ此ノ君ヲ以テ模範トスヘシ

○越後ノ高田ハ從來貧窮ノ聞ヘアリシ固ナリ然ルニ今テノ
君侯ノ世ニ為リテ痛ク其ノ家ノ制度ヲ改革セラレテ能ク
儉蓄ヲ守ラレタル固テ今ハ頗ル富厚ニ為ラレタリ予カ
竊ニ風説ヲ聞シニ神靈アルカ如シト云リ在固ノトキハ
鷹野ト名テ僅四五人ヲ從者ヲ率テ遍ク民間ヲ徼
行レ下々ノ艱苦ヲ訪問テ能ク百姓ヲ慰ニ且又山澤
ヲ開キ原野ヲ墾シ國益ヲ興サレレトモ又少カラス

日鷹野 出ラント村 浴シ有レ時ニ三人ノ百姓馬米
ヲ駝テ高田ノ方ヨリ来ル者アリ俟ノ曰ク賣米ノリヤ百
姓等君俟ナリトハ知ラスシテ歳貢米ナリト答テ俟其
答テ恠レ若シ年貢ナランニ何故ニ城下ノ方ヨリ来ル
ト問フ百姓等額ク覺テ答テ曰ク此ノ米ハ上米ナレ元
官倉ニテ忘米ナリトテ飯サレタリ度々右キ様ノコト
有テ難議ナ萬ナリト俟乃テ其米ヲ檢察セシニ實ニ
皆上米ナリ因テ其三駄ヨリ一極リツノ口米ヲ取り從者
懷中サセ百姓等ノ村名ト人名トヲ問フコレヲ別々ニ

書キ記シ百姓等ニ告テ曰ク我レ能ク^{ウヤシキ}倉更ニ傳言シテ
以後汝等カ難儀ノ無キ様ニシテ遣スハレ三日過リ
後ニ復此ノ米ヲ納ニ來レト懇ン告フレケレバ百姓等
悦ビ謝シテ去ル俟ハ本城ニ飯テ執政ノ諸臣下知シ
其翌日作日官倉ニ當番ニタル役人ヲ悉ク政事所
ニ呼出シ彼ノ一極リツノ口米ヲ視セテ其本ノ善惡
ヲ問フ倉役人等熟クコレヲ鑿定シテ辭^{コト}ヲ一ツシテ
皆上米ナリト奏ス於是乎其ノ私曲テ糾シ好惡ナル
役人ノ録ヲ取上テ城下ヲ遂ヒ拂リ國人皆震恐シテ

候ノ明察ニ感服ス且ツ嚴シク上下ノ奢侈ヲ警言シノ
放埒ヲ禁シ悉ク旧来ノ弊ヲ改ム是ヲ以テ国人各々其
業ヲ勵ミ風俗大ニ革リ境内漸々富實ニ及ベリ且ツ
土人ノ噂ヲ聞ニ近來本願寺ノ越後ニ下シ砌リ此候
兼テ此レヲ待テ受ルニ先ツ本願寺ノ來ラハル以前高田
ノ領内ノ百姓等ニ數多ノ用金ヲ申シ付タリ百姓モ大
金ヲ出スコトハ難儀ニ思ヒシカト是迄課役ト云フ程ノ無
理ナルコトナリ年來百姓ヲ憐愍アリシ君侯ノ事ナレハ
皆骨ノ折テ大金ヲ調達セシトソ本願寺ハ其大金ヲ

取リ上ケタル跡ハ京都ヨリ下ラレタラ以テ高田領内ヨリハ
布施奉納等ヲ出セシ極メテ輕少ナリシト云フ
柳モ高田領内ニハ處々親爲カ事蹟アルヲ以テ一向尊
修ノ門徒極テ多シ故ニ国内ノ人民總テ本願寺ノヲ
皈依スルコト狂ノ如ク莫大ノ金錢ヲ報謝シテ家産
ノ破ルヲ顧ス此レヲ制スレハ愈々テ亂ヲ作スニ至リ
國家ノ患ヲ爲スモ又是レキモノナリ此ノ候能ク事
跡ヲ察シ先大ニ金ヲ捲キ上ケ置キ報謝スルニ分貝
ヲ招クニ至ラシノ本願寺ステニ京ニ皈タルヲ聞テ而メ

ノ子ニ右ノ用金ニ些少ノ利分ノ加ヘテ悉ク此レヲ反
金セリト此等ノ行状ヲアンスルハ所謂ル惠而有術
者ニシテ頗ル英明ノ主ナリ然レトモ此ノ國既ハ富
賤用既ニ豊ナリト雖凡此侯息夕化貨ハラ好テ刻薄
ナルノ風聞アリ或ハ實ニ化貨ヲ好テ益シ賢君ノ内
心外ノ人ノ知ルベキニ非ス深ク慮アルトナルベシ經濟ノ
業ヲ創アルハ儉素ヲ以テ基根トスルコトナレトモ
儉薄ノ極メテ甚タシキニ過タルハ或ハ徳操ヲ損傷ノ
ルコト有り故ニ英主自ト雖ト天必ス有道ノセテ得テ

事ヲ共ニスルニ非ナレハ過不及ノ矢ナキコト能ス噫高
田侯ノ英物ヲ以テ刻薄ノ汚名ナルハ補弼ノ賢士
ナキ故ナルベシ又和列郡山モマタ貧國ナリシカ今テノ
君侯ノ世ニ及テ篤ク茶儉ノ二徳ヲ修ラレシヲ以テ國
内頗ル豊ニ為リ此侯ノ明察モマタ大畧高田侯ニ
類ス在國ノトキハ植ニ鷹野ニ出ラレ遍ク民間ヲ微ニ
行シテ百姓ノ困窮ヲ省キ耆老ヲ親ニ孤獨ヲ愍
ニ務ケ下民ノ便宜ヲ行ル是ヲ以テ明君ノ價遠近
ニ流聞ス京都大坂ノ邊ハ別レテ此ノ侯ノ徳探ヲ稱ス

○今ツ世ニ當テ侯国賤用富贍ナルハ藝州ヲ以テ第一トス尾州筑州備前土州雲州熊本長州松山松代高鍋大村大洲竹田庄内二本松人吉長岡將所嶋原飢肥田邊米澤小室諏訪等此レニ次ク又是難波ナリレ国ノ近賢君賢大夫出テ国政ヲ改革シ国事ヲ經營シテ頗ル挽回シタルモノハ秋田安濃津下總ノ佐倉常陸ノ笠間豊後ノ臼杵丹波ノ龜山ヲヨヒ高田郡山等ナリ然レドモコノ数國モマタ固ヨリ天地ノ心ノ奉行セシト欲シテ富国安民ノ

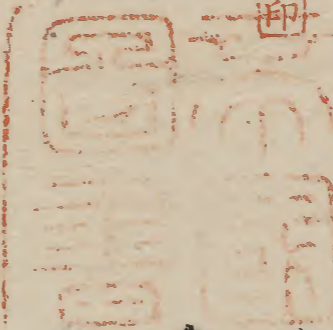
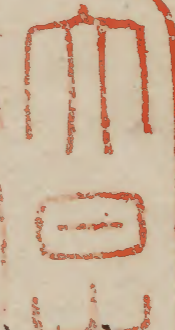
業ヲ創タレ赴ニモ見ユス且又永ク表微セサラン一ヲラ慮リテ無統ノ政リテ脩ル由ニモ聞エサレハ予カ其後ノ如何スルコト然ニ變ルベキモ前ニ知スルテ私ハス熟々古來諸家ノ盛衰スル事蹟ヲ考ルニ頗ル質素ヲ守ル賢君出ス国ヲ富スル有レバ其後以テノ外ナル放蕩ノ暴君出テ畜積ノ賤用忽ニ喪盡シ其上一ニモ借金ノ山ヲ作シテ萬民ノ困ルコト多シ故ニ經濟ノ要道ヲ知ラスシテ謾リ、大人主ヲ積ハ風前ニ木ノ業ヲ積聚ルコト固事テ猛風ノ如キ暴君ト出ルトキハ悉皆

散夫シテ何ノ益モ無キ者ナリ又經濟道ヲ行テ國ノ
富スト云モノハ其本旨トスル所ハ萬民ノ安集シテ天
地ノ神意ヲ安ンシ太平ヲ繼續セシメテ國家ノ永
長微セサランコトヲ務ルカ故ニ本来金銀ヲ畜積
スルトハ大ニ趣意ノ違クナリ國君モ儉素ヲ勤テ奢
侈ノ警告トハ金ヲ積ラセント欲スルニアラス無益ナル華
費ヲ止メ家士ヲ始メ百姓ノ衣服ヲ裕ニシテトモニ國
事ノ勉強カセシノ間物ノ業ニ從事セシテラ欲ルナリ
然ルニ家士ノ俸録ヲ減シ百姓ノ租稅ヲ增テ而シテ

大金ヲ積聚ノ唯從ニ年月ヲ送ルハ終ニ何事ヲ爲
サントスルヤ故ニ吝ナル人ノ積置タルカナラス其子孫ノ
放蕩ヲ盡レテ罪ヲ天ニ一復ルノ料トナルモノナリ可
不察哉郷等若シ諸侯ノ郷太夫ニ加擔シテ經濟
ノ道ヲ請スルトモ誓テ聚歛ノ徒トナルト勿レ然レ
ト奢侈ト驕慢ヲハ嚴ク警ヲ奢侈驕慢ノ人ハイツレ
儉素ヲ守ルコト缺ハスシテ必ス放蕩ヲ盡ス者ナリ浮
華ヲ好テ儉素ヲ守ルコト缺ハサル人ハ何程廣大肥饒
ノ國ヲ領スルニ必ス賤用ノ足ナルモノ困ムナリ又土地偏

少ト国ト雖此其君ニシテ茶儉有道者友トスルハ
賤用必ス餘ル有モノナリ管中ニ曰昔老桀霸有天下
而用不足湯有七十里之薄而用有餘天非獨為湯ト而
菽粟而地非獨為湯出賤物也俟尹通移輕重開闔
決塞通於高下徐疾之策坐起之費時也ト夏桀ハ
中華全國ノ總王ナルハ浮華ヲ好ミ奢侈ヲ縱ニシテ
放蕩ヲ盡シテ以テ賤用足ラス百姓ノ賤産ヲ彙テ
此ヲ困窮セシム又湯ハ僅カナル小国ヲ君ナレハ能茶
儉ヲ脩メテ質素ヲ守リシカ故ニ賤用ニ富リ且又伊尹

カ有道ノ士ナルヲ聞テ此ヲ其国ニ招キ共ニ国事ヲ謀
ル伊尹乃テ湯ノ為ニ輕重ヲ通テ移シ決塞ヲ開闔ス
ルノ法ヲ行ヒ互市交易ノ利ノ収テ益々湯ノ国家
ヲ富シ終ニ桀ヲ滅シテ湯ヲ天下ノ總主ト為セリ
若シ夫レ伊尹ヲシテ桀ヲ佐テ通移開闔ノ法ヲ行
ハシメハ何程廣大ナル利益ヲ興スレ皆一時ノ華費
ト為テハ熱湯ノ雪ヲ洗フカ如クニ消矢シテ何ノ役
モ立ツト無カルヘシ焉ニテ天下ヲ安靖スルノ大業ヲ成
スヲ得ンヤ故ニ良禽ハ板ヲ撰テ挿シ賢者ハ主



撰テ佐ノ郷等能ク熟察セヨ謂テ候素ハ創業
ノ基根ナレトモ然レモ亦吝嗇ニ陥リテハ不仁ノ甚シキ
ナリ郷等若シ経済ノ学ヲ修ムシテ欲シテ天運

應合ノ時ニ至ルヲモ俟ス奢侈メ家ト吝嗇ヲ主ヲモ
辨別セシテ強テ創業ニ從事ヲセンテ四ルカ如

キハ翅ニ勞シテ功ノ無キノミナラス我家ノ学ヲ穢シ
天地ノ心ヲ蔑如シタルナリ必ス不昧軒玄明窩ニ翁ノ

冥討ヲ蒙ランテ疑レ敬哉敬哉此レ等ノ論ヲ輕々
シク者過スルヲ勿レ

